

いのちは永遠に今ぞ花咲く

円福寺東堂 藤 本 幸 邦

成寿誌上御尊母様。御他界を知りました。

九十歳の天寿を全うされ 御尊父白純師に仕へ寺門を再興され 立派なお子様を八人も育てられ 全く良妻賢母婦徳の鑑と存じます。

お人柄については追悼のことばを拝し偲び申し上げ居りますが 太祖大師御遠忌の砌白純老師が焼香師として御登山されし折御挨拶をいただき また光真寺の御施餓鬼に説教師として随喜申しました折お世話様になりました。「幾人ものお子様が皆仏門に入られましたがどのように教育されましたか」という私

の質問に 御母堂様は「ただ仏さまの御恩を忘れてはいけないよと常に言い聞かせて育てました」とのお答えでした。

私の師である父藤本全機は宗務行政にかかわり 本庁の各部長をつとめ総持寺出張所の監院ともなりましたが 若き頃長野市の曹洞宗中学林の教師であり その生徒の中に御尊母様の父上臥龍山興国寺堂頭の前角老師が居られた由 そのような御縁で当時御尊母嘉様が高等女学校の技芸の教諭を務めて居られよき嫁ぎ先を頼まれていたと察しられます。

御尊母様とそっくりの小柄な前角方丈様が極めて謙虚にご挨拶をなさり 父とお話をなさって居られたお姿を今も印象にとどめております。たまたま宗務院の極く親しい友人であつたと思われる松本と記憶する老師から白純師の伴侶をとの依頼に臥竜山の前角師によきお嬢さんが居られる事を紹介し 早急に円福寺にて御見合という事になつたらしく私は未だ中学生でしたが体格の立派な見上げる青年僧の白純師が訪ねて来られ一泊される小僧としてお給仕役を務めました。父も母も立派な白純師にすっかり感服し賞讃おく事なくこの御縁がまとまるよう張り切っていました。翌朝嘉様がお一人で訪ねて来られました。「ごめん下さい」と玄関に入られた方はさしたる化粧もなさらぬ小さい女の先生らしき人でした。父は一所懸命にとりもちをしたようですが 御二人だけを座敷に残して「こ

れは困ったあんなに小さいとは」と白純師の偉丈夫の如き体格に比して余りにも小柄な嘉様の対照についてすすめる言葉を失つたようです。

後に白純師が母に語られたところによると白純師が「小さいですな」というと嘉様が「いなければやめましょうか」とか「お断わりになっていいですよ」とか言つたとのこと。プライドは高かつたのですね。

その夜白純師は信濃の寒さにか緊張の故か風邪をひかれ高熱を出され母は三日程看病申しあげました。帰られる時に「こんなに松本師や藤本師にご迷惑をお掛けして とてもお断り出来ませんからいたたく事にきめました」と啞々として父母に申出られた事を中学生の私は覚えています。思えば縁は尊いものです。その小さな母上から大きな偉大な御子様方が生れたのですから 私は白純師

から少年雑誌をいただいた事をおぼえています。思えば遠い少年時代の記憶の一こまです。月下氷人をつとめた父も母もそして白純師も嘉様も今はこの世には居られません。白純師の宗門に於ける また日本仏教会に於ける偉大な功績については蔭ながら承知申し居りましたが 小生にとっては雲の上の存在であられましたので 幼い中学生の思い出の中にある在りし日の御二人の御縁が結ばれた御見合の記を申しあげ追悼の記といたします。

過ぎゆきし月日は

今に帰らねど

いのちは永遠に

今ぞ花咲く

謹しみて御母堂様の御冥福を念じ申し上げます。

藤本幸邦老師

明治四十三年 長野市篠ノ井、円福寺に生まれる。現在、養護施設円福寺愛育園・円福幼稚園、円福保育園理事長を兼任

昭和五十六年勲五等瑞宝章受章、昭和五十九年仏教伝道文化賞受賞、アジア難民救済途上国学童支援の「円福友の会」を主宰、

曹洞宗ボランティア会顧問

平成四年外務大臣表彰受章

